

極上のチャリティーコンサート

じゃがいもの会

「振り返れば22年前、江戸時代の大飢饉の際に多くの人の命を救ったジャガイモのように、地味だけれど人のために役立つ存在でありたいとの思いを込めて、『じゃがいもの会』としてスタートした私たちの活動でした」

歌手の森進一さんが中心となって1985年から毎年続けられてきた「じゃがいもの会チャリティショー」が2007年5月、第23回をもって一区切りを迎えた。観客、出演者、多くのボランティアの方々の努力によってご寄附は毎回1000万円を超え、第19回以降の5年間は、日本UNHCR協会を通して、UNHCRおよび難民教育基金^(注)が実施する難民の教育支援事業に充てられた。NHKホー

ルのロビーには、NGO数団体が出展したお土産ショップが並んだ。「じゃがいもの会」が育んだ平和への思いは、これからも継承され、広がり、世界をつないでいくに違いない。

(注) UNHCR設立50周年記念事業として、2000年12月にスイスに設立されたNGOで、難民の中・高等教育支援を目的としている。

朝日チャリティーコンサート

「日本人の難民に対する意識は決して高いとは思われません。遠い国の人、こちらだって地震も台風もあって大変なのに外国まで手はのばせない、という考えもあります。でも日本の中で飢え死にする人はまずいません。むしろ飽食の時代、食べ放題捨て放題の時代とも言えます。テレビをひねれば誰かしらが何か



2007年5月17日にNHKホールで開催された第23回じゃがいもの会チャリティショー ©じゃがいもの会

食べています。(中略) 100万円もする値段のワイン、ステーキ、キャビア。その分を難民にまわしていただきたいと思ってしまう」(2006年プログラム挨拶文から引用)

歌手として60年を超える時代を過ごしてこられた石井好子さんが中心となって、1996年から毎年4月、有楽町朝日ホールで「石井好子とシャンソンの夕べ」が続けられている。開演前と終演後には、恒例の行事として、出演者数名がロビーに出てにぎやかに募金を呼びかけてくださっている。

関連情報:

<http://www.morishinichi.jp/potato.html>
<http://www.paris-sai.com/asahi.html>

ライブ・アンド・トーク 国会議員が楽器を持てば…!?

Giinz (ギインズ)

「音楽を通して我々の熱い気持ちが伝わると嬉しいです」と熱く語ってくれたバンドマスターの林芳正さん。

現職の国会議員がこれからの若者、日本、世界への熱いメッセージを大演説や、堅苦しいプロパガンダではなく

でもっと親しみのもてる伝え方—音楽—で発信している。軽快なポップスやロックのメロディーにのって、メッセージは新しく生まれ変わり、ことばも国境を越え、多くの人々と共有することができる。コソボ紛争難民支援から始まり、スマトラ沖地震津波復興支援のために奏で、2006年6月24日の「世界難民の日」フォーラムでは「ライブ(演奏)・アンド・トーク(演奏と歌を盛り上げる軽快な)」で会場を沸かせてくれた。難民支援の現場で出会った子どもたちの「モノはいらない、平和な故郷に帰りたい」想いを音楽にのせて。

関連情報:
<http://www.giinz.com>



©Giinz

歌詞

遙かなる想い 詞：松山政司

明日を夢に見ながら沈む夕陽を追いかけ
他には何もいらない、平和だけをください

果てしなく広がる大地に
今でも争いは続くけど
命ある喜びで羽ばたく

青く澄んだ空よ、遙か遠い故郷
国境を越え吹く風よ 想い届けて

生まれた意味を問かけ子どもたちは見つめる
迷える日々の暮らしに笑顔だけはなくさず

荒れ果てた歴史を踏みしめ
町をもう一度築こう
新しく湧き上がる力で

父がくれた強さ 母がくれた温もり
抱いて今日を生きよう いつか会えると

青く澄んだ空よ 遙か遠い故郷
国境を越え吹く風よ 想い届けて
国境を越え吹く風よ 想い届けて